



海外派遣実績報告書

所属：総合研究大学院大学 高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻

氏名：与那嶺 亮

海外派遣先国名：ドイツ

海外派遣先機関：DESY

海外派遣期間：10月19日～12月19日

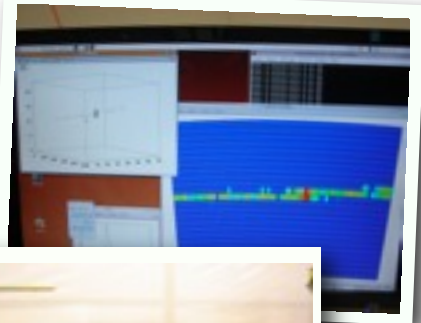
報告年月日：2008年1月18日

海外派遣先機関について

DESYは、物質の構造を探るためにつくられた世界的な研究機関の一つで、光科学や素粒子物理学のための加速器・検出器を、開発・運転・利用しています。

今回は、秋～冬の寒い時期の滞在でしたが、夏がおすすりとのことです。





海外派遣中の勉学・研究について

ビームテストの準備に関していろいろ参加しながら、学び取るという生活でした。ビームテスト以外の事柄でも興味があったものに関しては合間をぬって、見たり聞いたりしていました。

フランスグループのビームテストが始まってからは、ビームテストのシフトに参加させてもらい、実戦経験を積みました。

この経験を、2月から始まる日本グループのビームテストに活かしたいと思っています。



また、派遣期間中にスウェーデンのLund大学に武者修行に行ってきました。そこでは、DAQ(Data Acquisition)システムの開発が行われており、渡航の目的はそこで開発されているDAQシステムを使えるようになるということでした。これは来年始めに行われる日本グループのビームテストにおいて重要な仕事で、グループを代表して勉強してきました。また、実用面だけでなく、専門家と直接接することで、これまでブラックボックスであったシステムの仕組みを少しずつ理解できるようになり、より興味を持つようになりました。大きな収穫です。



全体としての感想は、多くの方の助けもあり、非常に充実した研究生活を楽しまました。

海外派遣前の準備について

今回の派遣先で行ったビームテストは、高エネルギー加速器研究機構(KEK)で行ってきた検出器開発と相補的な関係にあるもので、KEKでの研究を進める上で、DESYに行くことは必然的でした。そのため、海外派遣先情報の入手、海外派遣先の指導教員との連絡等は、日本での研究グループの先生方の力を借りながら進めました。



DESYでの、コーヒーを飲みながら、研究の進め方、議論(雑談含む)をしているところ。

勉学・研究以外の活動、旅行、スポーツなどについて

町中の散策、美術館、スケート、など。

ドレスデンの公園 →
きれいなところでした

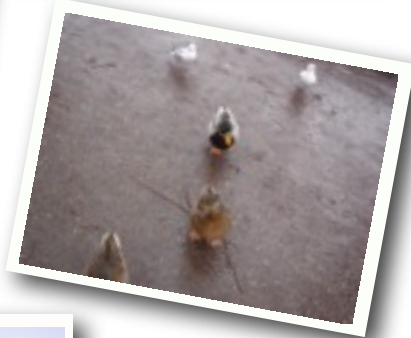


駅のトイレで知り合ったばかりの人
とクリスマス市にて。なぜかとても
親切にしてくれました ↓



ハンブルクにある ↑
教会の屋上から

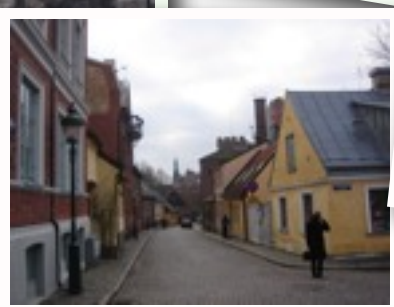
ハンブルクの魚市・・・の隣の倉庫 ↑
バンドの演奏を聞きながら、お客さんは朝から
ビールを飲みまわります。



← コペンハーゲンを
経由してルンドへ



ルンドにて ↑→



↑ 欲しいな〜と

海外派遣費用について

- 宿泊費： DESYでは、宿舎以外に貸し部屋を斡旋してくれ、月260€でシャワー・キッチン付きの部屋を借りた。
- 食費： 近所のスーパーで買ったり、DESY内のレストランを利用した。一日15~20€を見込んでおけば十分。がんばり次第でもっと安くできると思う。

全体としてお財布と相談しながら生活していたせいか、想定以上の赤字になることもありませんでした。持っていった金額は現金で5万程度、トラベラーズチェックで35万程度(15万程度は余ったと思います)、クレジットカード2枚という感じです。念のため、日本から送金してもらえる口座を用意しておくと思えます。

派遣先での語学状況について

日本語ですらあやしい人間ですが、適当な英語で生き延びることができました (相手もネイティブではないので)。聞き取れない場合は、必要に応じて何回も聞き直せば、問題ありません。語学の勉強は得意ではないため、ドイツ語を勉強しようとは考えていませんでしたが、ドイツの方に親切にされると、不思議なことにドイツ語も少し勉強してみようという気になりました。

派遣先で困ったこと

特になし

海外派遣を希望する後輩へアドバイス

様々な不安もあるかもしれませんが、思い切って踏み出してみましよう。
帰国後の研究意識が変わります。

最後に

この海外派遣事業の機会を与えて下さった総合研究大学院大学に感謝するとともに、この派遣事業に関して面倒をみて下さった学務課国際交流係のみなさまにお礼を申し上げます。

また、今回の派遣では多くの方のご支援のおかげで、研究に専念することができました。特に、高エネルギー加速器研究機構の大学院教育係の倉田さま、小林さま、宮居さま、および所属研究グループ秘書の豊村さまには、僕の至らない部分のフォローとともに暖かい声援を送り続けて下さいました。心より深く感謝し、この報告を終わりたいと思います。

